

地域住民対象

2020.10.23(金) 日高地域

会場: 日高地区コミュニティセンター
多目的ホール

小中学校のあり方

意見交換会

豊岡市教育委員会



次 第

1. あいさつ
2. 小中学校のあり方についての検討
3. 児童生徒数の推移と複式学級
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)
5. 保護者の意見(保護者向け意見交換会から)
6. 意見交換
7. アンケート

1. あいさつ

1.あいさつ

豊岡の教育のめざす姿

コミュニケーション教育

小学校 6 年
「転入生がやってきた」



中学校 1 年
「ジェスチャーで場面作り」



2. 小中学校のあり方についての検討

なぜ検討が必要なの？

少子化が進み、同級生が極端に少ない学年や複式学級が増えています

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学習面】	● 児童・生徒の一人ひとりに目がゆきとどきやすく、きめ細かな対応がしやすい。 ● 学校行事や部活動等で、児童・生徒一人ひとりに個別の活動機会が与えられやすい。	■ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団活動に制約が生じやすい。 ■ 部活動の部員の確保が難しい。 ➢ 部活動の数が減り、選択肢が少ない。 ➢ 試合に出られない。
【生活面】	● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ● 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	■ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ■ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。

2.小中学校のあり方についての検討

なぜ検討が必要なの？

	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
【学校運営】	● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、連携が密になりやすい。 ● 学校が一体となって活動しやすい。 ● 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	■ 教員の配置人数は学級数で決まるため… ➢ 一人当たりの教員の負担が大きくなる ➢ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい（専門的な学習にも影響） ■ 複式学級で授業を進めるためには特別な指導技術が必要。 ■ 運動会や文化祭等の運営に課題が生じる。
【その他】	● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	■ PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。



小規模校の良さもあるが、学校規模が小さくなりすぎると課題の方が大きくなる

なぜ検討が必要なの？

保護者の不安

- ◆進学後や社会に出た時など、大勢の中で馴染めるか不安。
- ◆同級生がいない。
- ◆複式学級が不安。

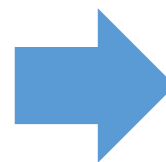
⇒ **他の学校区へ転居する事例も**

昨年の教育懇談会では、「地区では統合の話を出しにくい。市主導で方針を示してもらえないか。」という意見も。

2.小中学校のあり方についての検討

市教育委員会では、どのような検討をしているの？

「豊岡市立小中学校適正規模
・適正配置審議会」を設置して
審議中



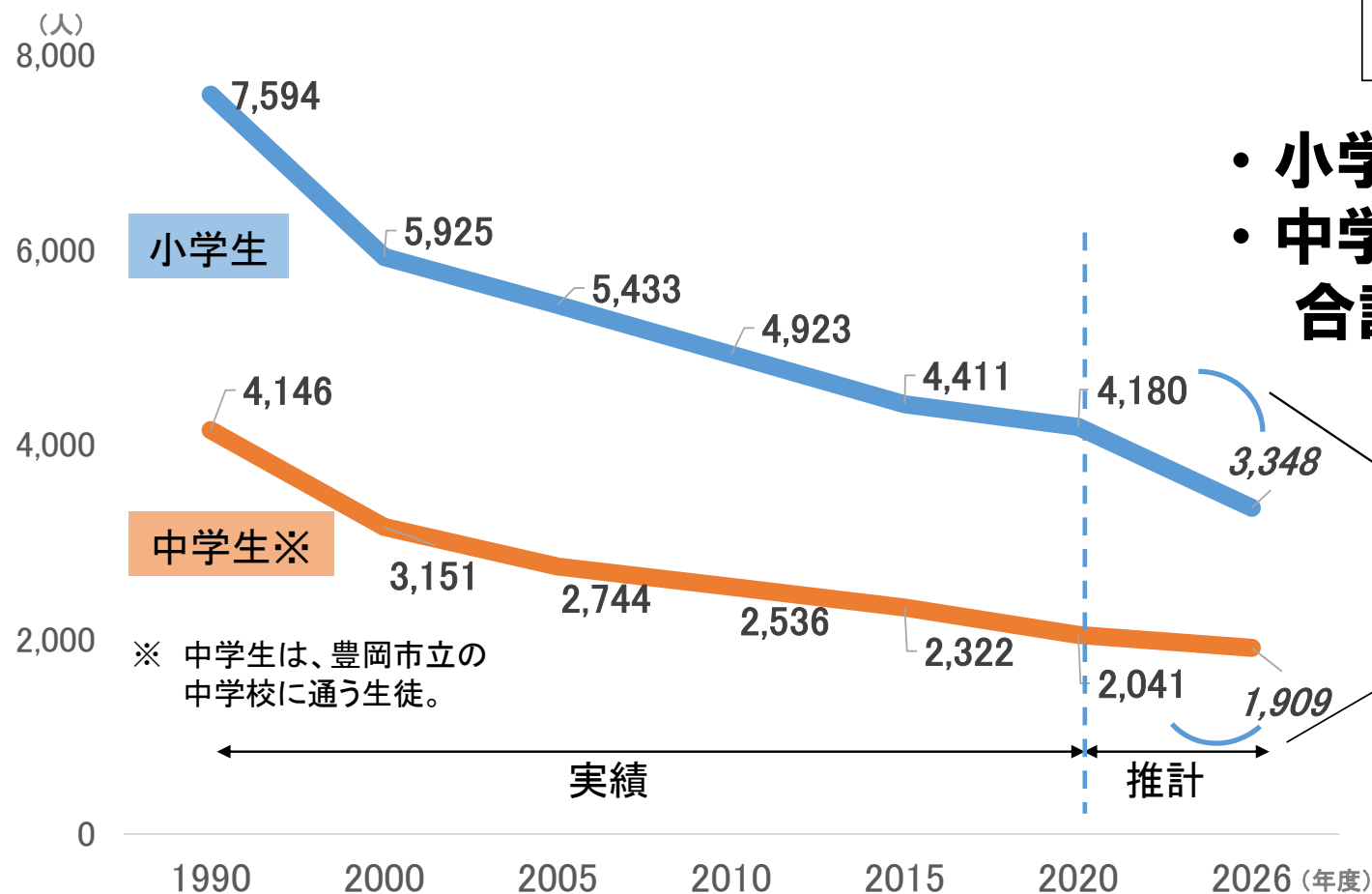
2021年2月
答申予定

小中学校の再編を視野にいた検討

3. 児童生徒数の推移と複式学級

3. 児童生徒数の推移と複式学級

児童・生徒数の推移



1990年⇒2020年

・小学生 3,414人 減
 ・中学生 2,105人 減
 合計 5,519人 減

約 1/2

さらに
 2020年⇒2026年
 6年間だけで
 【小+中】
 964人 減 (見込み)

兵庫県教育委員会 統計資料(各年5月1日現在)
 豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在) より

3. 児童生徒数の推移と複式学級

○公立学校の学級編制（複式学級）基準 （兵庫県の基準）

項 目	小 学 校	
単式学級	35人 (第1学年)	40人 (第2～6学年) ※ただし、第2～4学年は弾力的取り扱いにより 35人学級編成
複式学級	14人 ※2つの学年で (第1学年を含む場合は、8人)	

3. 児童生徒数の推移と複式学級

日高地域の各学校別学年人数と 今後の見込み

兵庫県教育委員会 統計資料(2020年5月1日現在)

豊岡市住民基本台帳(2020年4月8日現在)

3. 児童生徒数の推移と複式学級

日高地域

日高地域の各学校別学年人数と今後の見込み

2020年度

単位：人

小 学 校 名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	児童数 合 計	複 式 学 級 数	クラス数	備 考
府 中	29	31	36	26	28	31	181		6	
八 代	2	11	3	8	5	8	37	1	5	2-3複式,4-5複式解消
日 高	71	64	87	66	75	95	458		14	
静 修	2	12	4	9	8	8	43		6	3-4複式解消
三 方	19	18	22	22	20	22	123		6	
清 滝	7	17	18	11	15	14	82		6	
合 計	130	153	170	142	151	178	924			

3. 児童生徒数の推移と複式学級

日高地域

日高地域の各学校別学年人数と今後の見込み

6年後(2026年度)

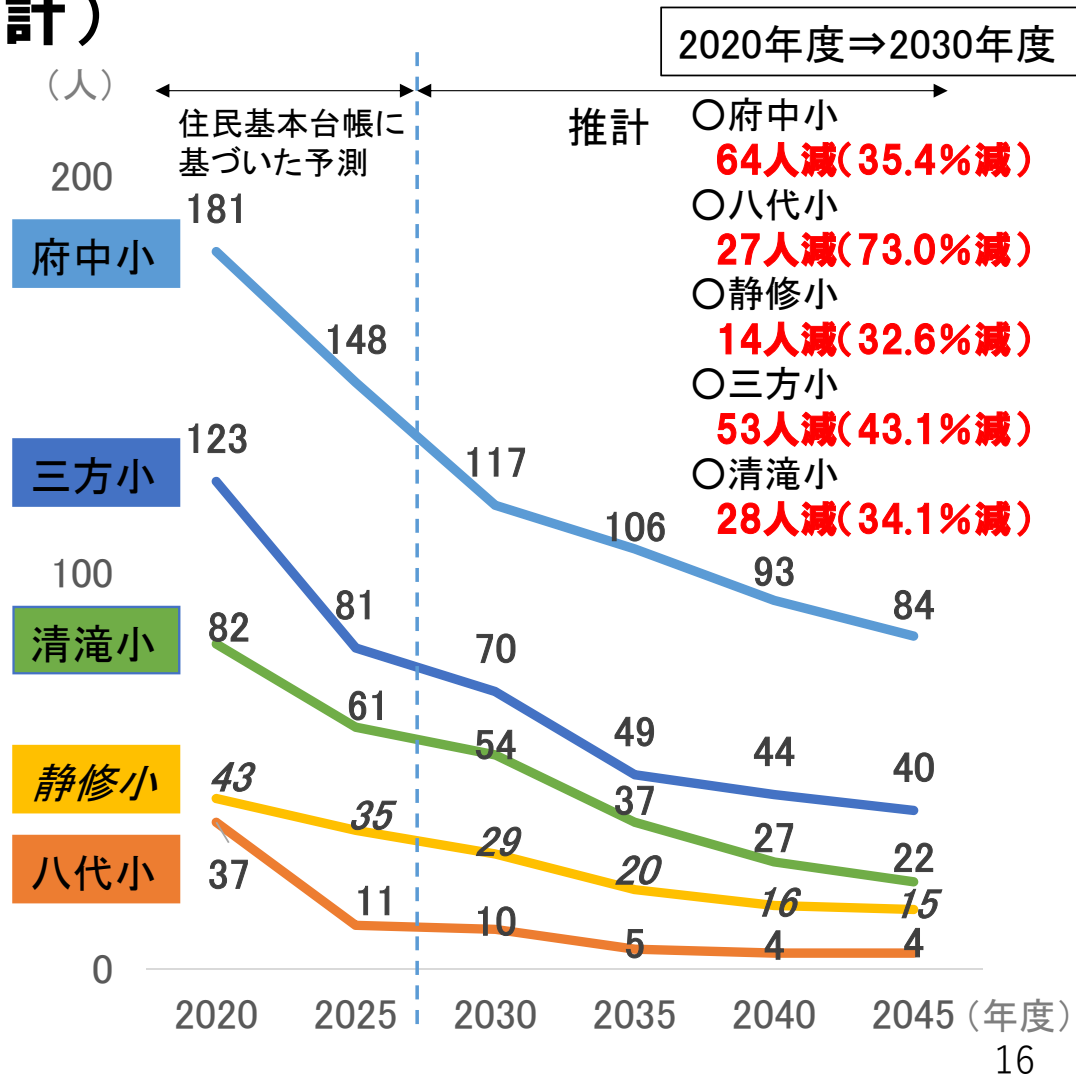
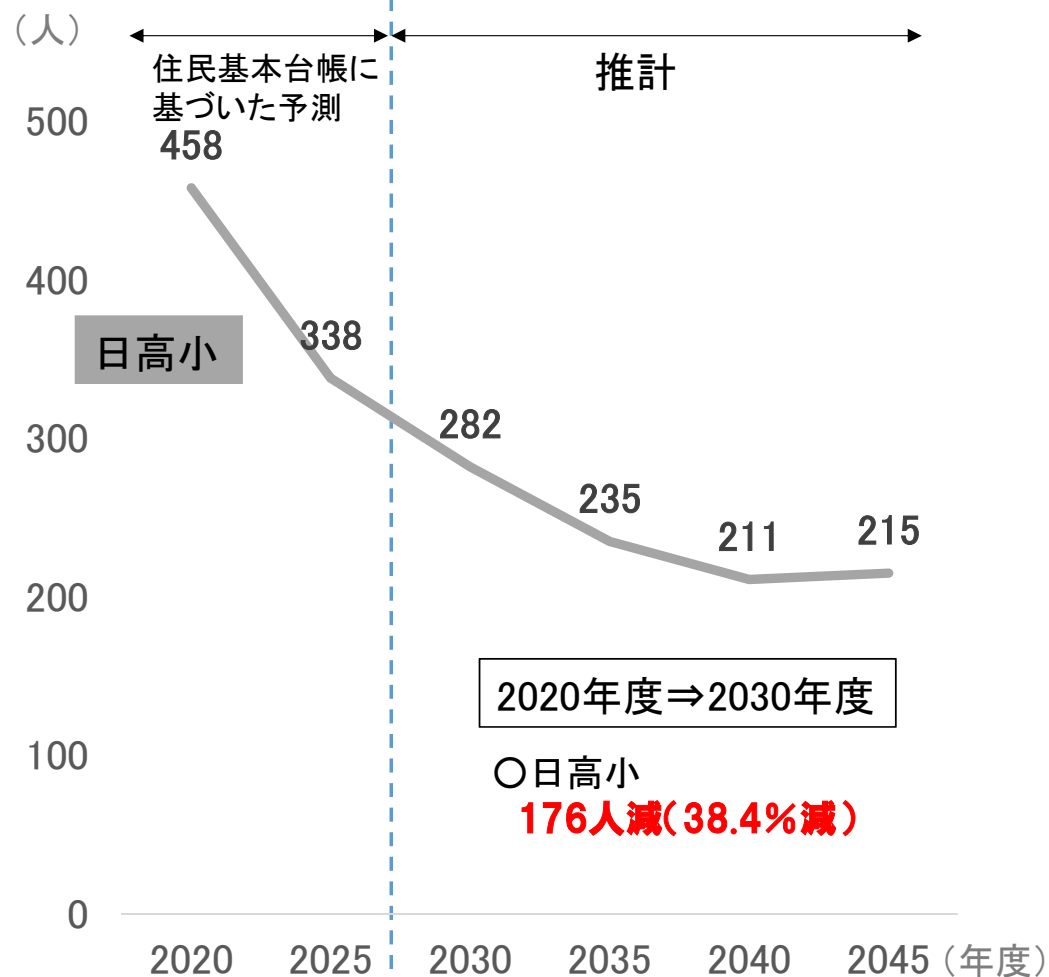
単位:人

小 学 校 名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	児童数 合 計	複 式 学 級 数	ク ラ ス 数	備 考
府 中	25	16	19	27	29	28	144		6	
八 代	3	2	1	3	1	2	12	3	3	1-2,3-4,5-6複式
日 高	49	47	66	54	56	44	316		12	
静 修	5	8	8	7	3	7	38	1	5	5-6複式
三 方	14	12	11	12	12	15	76		6	
清 滝	9	8	9	16	8	13	63		6	
合 計	105	93	114	119	109	109	649			

3. 児童生徒数の推移と複式学級

日高地域

児童数の今後の見込み（2020年度推計）

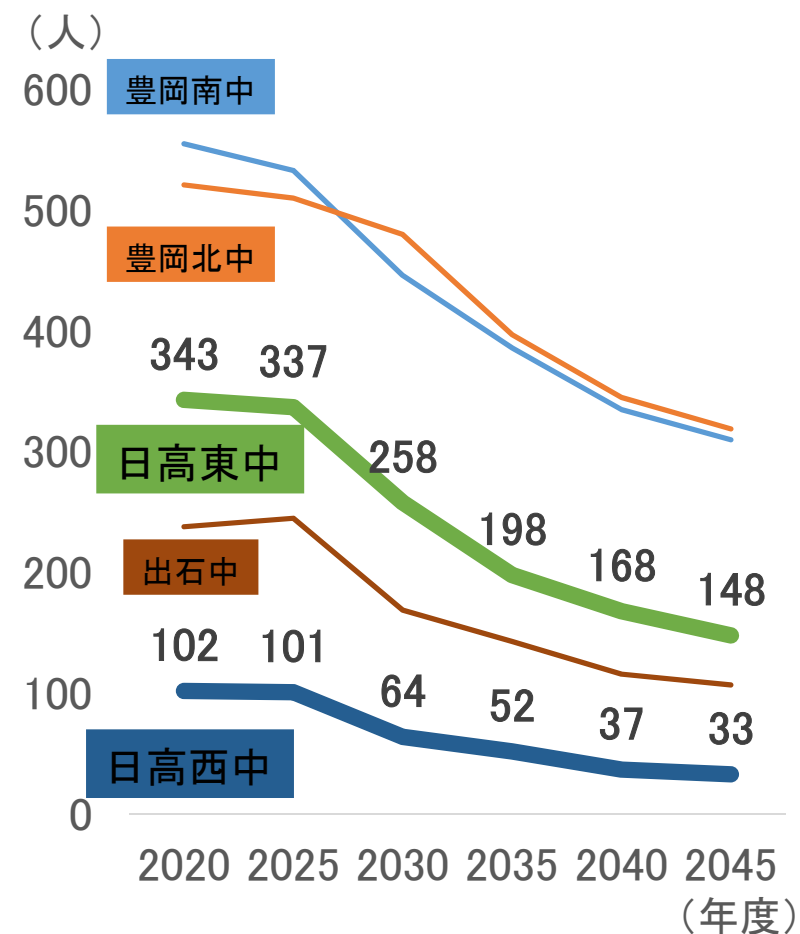


3. 児童生徒数の推移と複式学級

日高地域

中学校別生徒数の今後の見込み（2020年度基準）

学校名	中1	中2	中3	生徒数 合計	学級数
日高東中	105	130	108	343	10
日高西中	28	37	37	102	3
豊岡南中	197	182	176	555	15
豊岡北中	164	162	195	521	13
港中	19	16	27	62	3
城崎中	23	25	18	66	3
竹野中	24	29	18	71	3
出石中	77	92	69	238	7
但東中	25	31	27	83	3
合計	662	704	675	2,041	60



4. 小中学校適正規模・適正配置の 考え方と再編の枠組(案) (現時点での検討案)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

1 適正規模

(1) 理想とする姿

ア 小学校 12～18学級(1学年あたり 2～3学級)

イ 中学校 9～18学級(1学年あたり 3～6学級)

(各学年でクラス替えができる複数学級を確保)

※文部科学省の『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』で示された目安

(2) 最低限確保したい学校規模(下限の目安)

ア 小学校 全校児童120人程度以上(各学年20人程度以上)

イ 中学校 全校生徒 60人程度以上(各学年20人程度以上)

(単学級でも複数のグループが編成できる人数を確保するための必要人数を確保)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

2 適正配置

(1) 通学時間

小・中学校とも概ね1時間以内とする。 ※遠距離では、交通手段の確保が前提

(2) 再編の枠組み

地理的要因・社会的背景を考慮した学校配置とするため、

ア 小学校 原則、同一中学校区内とする。

イ 中学校 原則、旧市町域内とする。(ただし、港・城崎は除く)

また、旧市町域内に1校は存続させる。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方（素案）

3 再編の進め方

(1) 複式学級の解消を最優先

対象

ア 既に複式学級がある学校

イ 近い将来、複式学級が生じる学校（10年程度）

(2) 将来を見据えた **検討** を開始

対象

ア 小学校 全校児童120人程度

イ 中学校 全校生徒 60人程度

下回る

⇒ 地域との調整を始める（統合検討委員会の設置等）

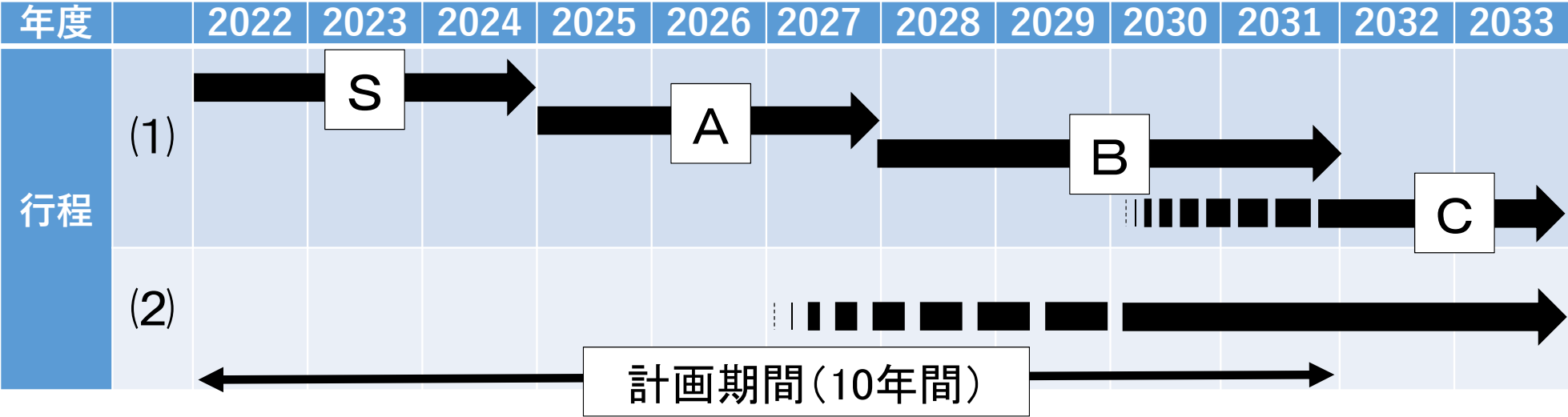
4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

3 再編の進め方

◇年次計画(イメージ)

- (1) 複式学級の解消
- (2) 将来を見据えた検討



S: 最優先
A: やや急ぐ

B: 5～10年後
C: 10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

豊岡市の学校適正規模・適正配置の考え方(素案)

4 これ以上再編が困難な場合の教育課題の軽減

地理的要因等により、再編を進めることが難しい場合、多様な考えに触れるための対応策として次の項目について検討を進める。

ICTの活用による学校間交流や オンライン授業の検討



4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

再編の枠組み案 (現時点での検討案)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域の場合・・・

検討対象校	枠組(案)	優先度
八代小学校	① 八代小＋府中小	S
	② 八代小＋日高小	
静修小学校	静修小＋日高小	S
三方小学校 清滝小学校	三方小＋清滝小	C
日高西中	日高西中＋日高東中	C

S:最優先

B:5～10年後

A:やや急ぐ

C:10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

市全域での検討は・・・

検討対象校	優先度	検討対象校	優先度	検討対象校	優先度
中竹野小学校	S	小野小学校	A	港小学校 ^(仮称) (港東小＋港西小)	C
竹野南小学校	S	合橋小学校	A	三方小学校	C
八代小学校	S	資母小学校	A	清滝小学校	C
静修小学校	S	中筋小学校	B	小坂小学校	C
寺坂小学校	S	港中学校	B	日高西中学校	C
高橋小学校	S	城崎中学校	B		

S: 最優先

B: 5～10年後

A: やや急ぐ

C: 10年以降(計画期間内に協議を開始)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）

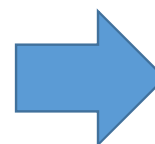
日高地域

①八代小学校と府中小学校の場合

複式学級を解消

優先度S

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
八代小	37	4	10	3
府中小	181	6	117	6
合 計	218	—	127	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	20	1
2年	21	1
3年	22	1
4年	21	1
5年	27	1
6年	16	1
合計	127	6

枠組み(案)の
理由

- 複式学級の解消を図る。
- 1学級20人程度の集団が確保できる。

課題

- 統合しても各学年が単学級となる。
- 通学距離が遠距離(10km以上)となる地域がある。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域

①八代小学校と府中小学校の場合



4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

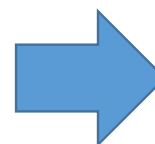
日高地域

②八代小学校と日高小学校の場合

複式学級を解消

優先度S

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
八代小	37	4	10	3
日高小	458	14	282	12
合 計	495	—	292	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	42	2
2年	45	2
3年	47	2
4年	48	2
5年	57	2
6年	53	2
合計	292	12

枠組み(案)の
理由

- 複式学級の解消を図る。
- 1学年複数クラスとすることができる。

課題

- 通学距離が遠距離(10km以上)となる地域がある。
- 日高小は静修小との再編も考えられる。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域

②八代小学校と日高小学校の場合



学校間距離

約6.5km

学校間移動時間(バス)

約20分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

小河江 ⇒ 日高小 10.5 km

赤崎 ⇒ 八代小 9.4 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

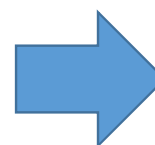
日高地域

静修小学校と日高小学校の場合

複式学級を解消

優先度S

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
静修小	43	5	29	3
日高小	458	14	282	12
合 計	501	—	311	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	45	2
2年	48	2
3年	49	2
4年	51	2
5年	59	2
6年	59	2
合計	311	12

枠組み(案)の
理由

- 複式学級の解消を図る。
- 1学年複数クラスとすることができる。
- 同じ地域コミュニティに両校区が属している。

課題

- 日高小は八代小との再編も考えられる。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域

静修小学校と日高小学校の場合



学校間距離

約2.3km

学校間移動時間(バス)

約7分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

久田谷 ⇒ 日高小 3.1 km

赤崎 ⇒ 静修小 5.2 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

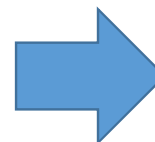
日高地域

三方小学校と清滝小学校

計画期間内(10年)に協議を開始

優先度C

学校名	2020年度		2030年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
三方小	123	6	70	6
清滝小	82	6	54	6
合 計	205	—	124	—



学年	2030年度	
	児童数	学級数
1年	16	1
2年	18	1
3年	20	1
4年	19	1
5年	30	1
6年	21	1
合計	124	6

枠組み(案)の理由

- 将来的に予測される複式学級の解消を図る。
- 日高西中学校区である。

課題

- 統合しても各学年が単学級であり、20人程度規模の学級人数が確保できない学年もある。
- 通学距離が遠距離(10km以上)になる地域がある。

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域

三方小学校と清滝小学校



学校位置図

学校間距離

約4.8km

学校間移動時間(バス)

約15分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

稲葉 ⇒ 三方小 11.1 km

羽尻 ⇒ 清滝小 8.3 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

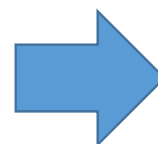
日高地域

日高西中学校と日高東中学校

計画期間内(10年)に協議を開始

優先度C

学校名	2020年度		2030年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
日高西中	102	3	64	3
日高東中	343	10	258	9
合 計	445	—	322	—



学年	2030年度	
	生徒数	学級数
1年	107	3
2年	112	3
3年	103	3
合計	322	9

枠組み(案)の
理由

- 1学年複数クラスとすることができる。
- 旧市町域内での再編である。

課題

- 通学距離が遠距離(約20km)になる地域がある。

日高西中学校と日高東中学校

計画期間内(10年)に協議を開始

優先度C

例えば部活動では・・・

学校の小規模化により部活動の数が減少

学校名	運動部	文化部	備 考
日高東中	9	3	卓球部廃部
日高西中	4	1	ソフトボール部 美術部 クラフト部 } 廃部

- ・ 部活動が選択できない(選択肢が少ない)
- ・ 部員間での競争がない
- ・ 団体競技のチーム編成ができない(試合に出られない)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

日高地域

日高西中学校と日高東中学校



学校間距離

約6.9km

学校間移動時間(バス)

約21分 (20km/h)

最も遠い集落からの距離

稲葉 ⇒ 日高東中 19.6 km

小河江 ⇒ 日高西中 14.9 km

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

今後のスケジュール

※太文字は地域住民の意見を聞く場

時 期	内 容
2020年9月～10月	保護者、地域との 意見交換会
2021年2月	審議会から答申(予定)
2021年4月～	答申内容の 地域説明会
2021年9月頃	計画(案)の 地域説明会、パブリックコメント
2021年11月末頃	計画策定・公表
2021年12月～	統合に向けた 校區別説明会
2022年4月	計画スタート、 統合検討委員会の設置調整
2023年4月	学校統合(最も早い場合)

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

(参考)地域独自の動き①

奈佐小学校 児童数 35人 (2年生児童は1名)

2019年12月に要望書が提出された(奈佐区、奈佐小PTA)

2021年4月に五荘小学校と統合予定

港東小学校・港西小学校 港東小児童数 50人
港西小児童数 42人

2020年2月に要望書が提出された(港地区区長会、港3校1園PTA)

2021年4月に統合し、港小学校(仮称)となる予定(校舎は港東小学校を使用)

※児童数は2020.5.1 時点

4. 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組(案)

(参考)地域独自の動き②

中竹野小学校 児童数 23人 (2年生児童は0名)

2020年9月に要望書が提出された

(中竹野地区区長協議会長、中竹野小学校PTA会長、竹野認定こども園
中竹野地区保護者代表から)

2022年4月に竹野小学校と統合予定

※児童数は2020.5.1 時点

5. 保護者の意見

（保護者向け意見交換会から）

小中学校のあり方意見交換会まとめ（保護者向け 日高会場）

意見交換での意見・質問等（主なもの）

《適正規模・適正配置》

○校区が決まっているため、日高小に行きたいと思ったとしても、転居でもしないと行けない。逆に、他の地域から静修小に行きたいという方も、もしかしたらいるかもしれない。例えば、『小規模特認校』として他の校区の子どもを受け入れるようなことは、審議会で議論をされたことがあるのか。

また、コミュニティを分割、分配することはできないのか。かなり難しいと思うが、議論の一つとしてあってもいいと思う。

⇒ 小規模特認校については、審議会でも議論したが、実施している他市の事例を見ても、通学の送迎は、保護者負担となることなどから、村部ではやっと1人2人増えるという程度で、効果が上がらない、うまく機能しないのではないかという結論である。

また、校区の見直しについても、コミュニティは歴史的なつながりの中で形成されているので、それを分断してしまうと、これまでのつながりが途絶えてしまうこととなる。他の事例では、学校が、統合してもコミュニティが頑張って地域のつながりを保っておられる。コミュニティ自体を再編ということは難しいと考えている。ご意見としては、審議会につながせていただく。

○単式学級 35 人という県の指針があるが、豊岡独自で数字を下げることはできないか。また、中学校については、統合ではなく、西中・東中の校区を再編するという考え方の発想はないのか。

⇒ 学級人数は、1 年生が 1 クラス 35 人、2～6 年生は 40 人と、国（県）の基準で定められている。また、教員の配置人数は、学級数に基づいて決まる。教員の人件費は、県の負担であるが、市独自で増員となると、市の負担となるので、独自に配置することは非常に難しいと考えている。ただ、国では、少人数クラスについての検討が進められているので、その動きに期待している。

中学校区の再編については、他の保護者、地域の方の考えはどうか、また、どこで分けるのか、通っている子どもをいつ分けるのかなど課題も生じると考える。意見については、審議会に持ち帰らせていただく

《学校再編》

○学校の人数の問題でこの再編を考えられているが、とてもいいことだと思う。先ほどの複式学級のビデオで見たように、1 つのクラスで 2 学年が過ごすのは、子どもたちにとってメリットがないように思う。発達に特性がある子は集中できない。そういう子どもたちが適切な環境で勉強ができるというのは、特別支援の観点でも必要だと思う。ぜひ複式学級は解消して欲しい。

⇒ 適切な環境にしてあげたいというご意見をいただいた。
現在、複式学級のある学校は、先生方の様々な努力・苦
労によって、デメリットを極力小さくして進めていただ
いているところではあると思う。そういった中でも、た
くさんの学校で複式を解消しているのは、複式学級より
も単学級の方がいいとの判断によるものと考えている。

○私の子どもは、これまで、少ない人数の中でしか学んだこと
がなかったが、今は別の学校に通っている。子どもも、最初は
戸惑っていたが、すぐに慣れて、楽しそうにしている、以前よ
りもがんばっている。やはり、競争相手がいないというのが本
当につらい。

小規模小学校の地区の皆さんは、縦のつながりが良いと言わ
れるが、私は、横のつながりができないから縦のつながりにな
っているだけだと思う。大きな小学校と一緒にいるのは、抵抗
があるかもしれないが、行ってみたら良いことしかなかった。
学べることもたくさんあるし、いろんな意見を持っている子
どもがいるので、本人もその意見を取り入れてさらに違う意
見を出すということができるようになってきている。やはり、
少ないのには限界があると思う。

○再編案で、三方小学校と清滝小学校の優先度Cは遅いのでは
ないかという印象がある。2026年の段階でも清滝小学校は同
級生が一桁という学年が多く、他の学校に行くという人が出
てきたら、どんどん減っていく。10年も待っていて大丈夫な

のかと思う。統合するのはその頃だとしても、地域やPTAが
相談し始めるのは、早急に始めた方がいいと思う。

⇒ 三方と清滝については、複式が始まる前までにと考えて
いるが、それ以前に、地域の方とは話し合いをしていくべ
きだと思う。複式の解消という観点とは別に、情報交換
や課題共有という形で話を始めていければと考えている。

○地域の方と保護者はかなり意見が違う部分が多いと思う。そ
れをまとめるのはPTAであったりするのだと思うが、それ
だけではまとまらない。保護者の声と地域の声とでは、地域
の方が強いのではないか。地域には大変お世話になっているが、
子どもを直接育てる立場としての保護者からの意見を重きに
おいていただければと思う。(他にも同様の意見あり)

⇒ 市としての説明だけでは、おそらく地域の方にとっては
足りない部分も出てくるかもしれない。保護者の方の意
見をもとに、地域の方に伝えながら、これからの地域を
担う子どもたちのためにも、なんとか理解していただけ
るよう、お願いをしていきたい。

○さらに子どもが減少して少子化が進んでいく中で、再編とい
う考え方はすごく大事である。

大規模校に行ってもよかったということも大事だが、どんど
ん子どもが減っていく中で、少人数での教育保障と、今後さらに
子どもが少なくなったら、再編、また再編になる。最終的に、
この資料にある30年、それよりさらに先を見据えて、場当た

り的な資料で説明するのではなく、根本的な解消はどうなんだということを、地域の方への説明で持って行かないと、説明責任は果たせないのではないかと思います。

⇒ 2つの意見があると思う。そんな先のことを言われてもという方もあると思うし、遠い将来を見据えて計画を立てるべきという意見の方もあると思う。今後、子どもがどんどん少なくなっていく中で、ゴールがどこなのかという心配もあるかと思う。地域の方がどんな反応をされるかということも含めて、今後の判断の参考とさせていただきたい。

○複式学級のビデオを見せてもらったが、我が子も複式になったことがある。複式が悪いような感じで映されていたが、うちの子に関してはよかったと言っていた。なぜかというと、同じクラスに人がいっぱいいるから。複式で何が気になるかという学力だと思う。かといって、私の子どもに関しては学力が下がったというわけではない。複式の何が悪いかというのは、人数がいらないのが悪いので、映像を見ると複式は悪だといった捉え方だったので、それはどうかと思った。

⇒ 現在でも複式で勉強されている方もたくさんおられて、その方々に対してダメだと言うつもりはない。今言われたように、先生や保護者、子どもたちの協力のもとに何とか成り立っていると思っている。ある程度の人数がいれば複式にする必要はないので、一番の原因はやはり、人数が少ない事だと思う。

複式学級で、支障なく勉強されている方もおられるが、発達に特性のある子どもにとっては、周りの音が気になって仕方がない、中には双方からの音で混乱して他の声が聞き取れないという子もいる。そういった環境を何とかしていかないといけないということで見ていただきたいと思う。

《その他》

○男の子1人で女の子ばかりとか、少ない人数とか、悩みを抱えておられる保護者もたくさんおられる。統合されるまで待つというのはなかなか難しいと思うので、そういう子たちは、校区外入学を認めてあげて欲しい。

○学校だけの問題ではなく少子化問題がどうしても気になって、右肩下がりの状況を何とかしていかないと、これからの日高町どころか豊岡市に未来はないと思う。逆に言うと、今の保護者たちが、この豊岡市、日高町はとても良いところだ、ここに何とか帰ってきたい、帰ってきて欲しいと思えるまちであれば、子どもたちは孫を連れて帰ってくると思う。（他にも同様の意見あり）

⇒豊岡市の人口減少対策として、人口減の一番大きなポイントになっているところに的を絞って、ジェンダーギャップの取組や、子どもたちへのふるさと学習など、豊岡の魅力を子どもたちに伝える努力など、若い方々に絞って取り組んでいるところである。

将来的には人口が減るのは間違いないので、減った中でも豊岡に暮らす価値があって、地域を支える子どもたちに残っていただける、少なくとも活力があるまちというのを目指している。そういう取組について、地域でもご協力をいただけたらと思う。

アンケートでの意見等（主なもの）

- 学び合い、練り合いが成立するためにはある一定程度の人数が必要ではないかと考える。学びの基盤として、学校規模を適正にすることが大切である。
- 適正な規模の児童数が必要であると考えます。そのことが、地域を守ることにもつながるものと思います。これからの時代を生きていくのは子どもたちです。この子たちのことを最優先で考えたいです。
- 複式学級のビデオを見て大変驚きました。勉強に集中できるのか？と思います。この授業を我が子に受けさせたくありません。現状頑張っている子どもさん、先生には申し訳ありませんが、率直な感想です。
- 複式は解消し、同学年のみの授業を受けさせてください。
- 子どもが幼い間は、あまり心配していませんが、中学校については、少ないことに心配しています。統合については、小学校の課題が多いようですが、中学校についても、ぜひ進めていただきたいです。西中はCでしたが、Cでは遅いのではないかと思います。多くの人の中で学び、生活して悩んだり考えたりといった学びの機会を、未来を担う子たちに保障してやって欲しいです。
- スピード感を持って取り組まなければならないとは思いますが、統合ありきを前提で話を進めていくのは反対である。様々な意見を幅広く聞いた上で話を進めて欲しい。
- 少子化という話はよく耳にしていたが、ここまで進んでいるのかと正直驚いております。地域の基盤ともいえる小学校が統合とはいえなくなることの恐怖を感じます。こども優先とはいえ、地域に根差すのは親である我々ですが、地域が崩壊しないような配慮が必要だと思います。
- 少ない人数でも良い学習内容が確保されれば問題ないのと思う。人数だけではなく教育レベルの高い小学校を目指すべき。
- 部活動やクラブ活動に民間の活用をしっかりと考えて、子どもたちに様々な機会や経験を与えて欲しい。